

No.110

一般社団法人 日本化学工業協会

レスポンシブル・ケア ニュース

2025 夏季号



レスポンシブル・ケア®



5月27日

日化協 第34回 定時総会

5月27日(火)、第34回日化協定時総会が開催されました。総会は、正会員数258名に対し、委任状を含め196名の出席の下で開催されました。

岩田会長が議長を務め、下記議案について審議が行われ、いずれも意義なく原案の通り承認されました。

議案

1. 報告事項 2024年度事業報告および決算報告の件
2. 審議事項
第1号議案 理事補欠選任案の件
第2号議案 2025年度事業計画案及び収支予算案の件

議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。次に議案審議に先立ち、議事録署名人2名の選出につき、議長に一任願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なくこれに同意しました。議長は出席した正会員の中から、山近幹雄氏、並びに加藤敬太氏を議事録署名人に指名し、両氏はこれを承諾しました。

報告事項 2024年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、進藤専務理事が、2024年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月8日実施の監事による監査を経て、5月12日開催の総合運営委員会、5月14日開催の審議委員会、5月21日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、資料1及び資料2に基づき、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して高村 美己志監事が、5月8日に開催した監事会において、2024年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案 理事補欠選任案の件

次に議長は、理事の選任は、定款上、候補者ごとに決議を行うこととしているが、時間等の関係上、7名の補欠選任を一括して審議したい旨を述べ、異議のある会員の挙手を求めました。



一括決議に異議がないことを確認した後、議長が、資料に基づき、理事7名の選任につき、原案通り承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく選任が原案どおり可決承認されました。なお、今回選任された理事の任期は、他の理事の任期と同じとなります。

記

	前任者	後任者	
理事	山近 幹雄	堀 哲朗	JSR株式会社
理事	今井 俊夫	石田 郁雄	デンカ株式会社
理事	涌元 厚宏	川村 茂之	日本化薬株式会社
理事	藤井 政志	伊佐早禎則	三菱ガス化学株式会社
理事	福田 信夫	筑本 学	三菱ケミカル株式会社
理事	泉原 雅人	西田 祐樹	UBE株式会社
理事	森川 宏平	高橋 秀仁	株式会社レゾナック・ホールディングス

第2号議案 2025年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、2025年度事業計画及び収支予算の各案は、3月17日開催の総合運営委員会、3月19日開催の審議委員会、3月21日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、資料に基づき、内容について説明を行いました。

後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第34回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感じ閉会を宣言しました。



GXを推進し、 持続可能な社会の確立に貢献

一般社団法人 日本化学工業協会 会長 岩田 圭一

会長の岩田でございます。本日はご多用の中、定時総会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。昨年5月に会長に就任しましてから、「GXの推進」、「国際協調の促進」、「安全、化学品管理の取り組みの着実な実施」の3点を重点テーマとして、諸施策を講じてまいりました。



方針① GXの推進

GXにつきましては、排出量取引制度の法定化を含むGX推進法改正案が本年2月に閣議決定され、今国会での法案可決以降、制度の具体検討・詳細設計が進んでいく見込みです。当協会といたしましても、昨年、「GX推進部会」を立ち上げ、排出量取引制度について、部会メンバーで議論を行い、業界としての意見具申を行っています。同時に化学業界としての2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップを作成すべく、現状の分析、課題の抽出、業界としての打ち出す方向性等について内部検討を進めています。また、チャレンジングな取り組みではありますが、リサイクル品についての社会認知を向上させ、化学品の循環利用を後押しすることを目的に、「リサイクル率確認登録制度」について、会員企業を中心に試験運用を開始しました。今後、いよいよ、会員以外の一般企業への開放も行う予定です。制度の本格運用に向けて、引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

方針② 国際協調の促進

2点目の国際協調に関しては、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書(条約) 策定に向け、政府間交渉委員会(INC)が本年8月に再開される予定です。当協会は、引き続きICCAのメンバーとして議論に参画し、会員企業の要望も踏まえた意見具申を行うなど、日本の化学産業の競争力維持・向上に資すべく、国際社会の中で、建設的に関わってまいります。

方針③ 安全、化学品管理の取り組みの 着実な実施

3点目の安全・化学品管理の取り組みにつきましては、化学産業が存続するための基盤、大前提です。労災については、特に近年会員各社の協力会社における労働災害率が、残念ながら増加傾向にあります。「安全表彰」をはじめ、日化協活動を通じて得られた会員企業のグッドプラクティスを広く共有するなど、労災撲滅に向け、対策を協議してまいります。

現在、深刻な国際紛争の影響や保護主義の台頭により、不確実性と不透明感がさらに増し、特に、米国トランプ政権が打ち出す政策について、エネルギー・環境など各分野への影響が懸念されております。こうしたなかにおいても、カーボンニュートラルや循環経済を骨格とする「持続可能な社会」を目指す方向性は変わりません。引き続き、25年度も、「GXの推進」、「国際協調の促進」、「安全・化学品管理の取り組みの着実な実施」を重点テーマに諸施策を進め、化学産業ひいては社会の発展のために努めてまいりたいと考えております。皆様には、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



日化協三賞受賞各社の紹介

5月21日(水)、日化協安全表彰(安全最優秀賞・安全優秀賞・安全優秀特別賞)、日化協技術賞(総合賞・技術特別賞・環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞・RC審査員特別賞・RC優秀賞・RC努力賞)の本年度受賞者が決定しました。各賞の受賞者は以下の通りです。

第49回 日化協安全表彰

【安全最優秀賞】

- ・株式会社レゾナック 龍野事業所

【安全優秀賞】

- ・PSジャパン株式会社 水島工場
- ・三井・ダウポリケミカル株式会社 千葉工場
- ・株式会社レゾナック・オートモーティブプロダクツ 関西事業所(石川)
- ・株式会社レゾナック・セラミックス 横浜工場

【安全優秀特別賞】

- ・株式会社レゾナック つくばサイト



安全最優秀賞を受賞した㈱レゾナック龍野事業所

第57回 日化協技術賞

【総合賞】

- ・該当なし

【技術特別賞】

- ・帝人株式会社、福井経編興業株式会社、大阪医科薬科大学
「小児心臓再手術のリスクを減らす心・血管修復パッチの開発と実用化」

【環境技術賞】

- ・花王株式会社
「持続可能な社会基盤構築に貢献するコンクリート表面美観向上技術の開発」
- ・東ソー株式会社
「機能性3級アミン「RZETA®」の開発」



技術特別賞を受賞した帝人株式会社、福井経編興業株式会社、大阪医科薬科大学

第19回

日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞

【RC大賞】

- ・花王株式会社 和歌山工場・研究所
「歴史と環境を未来につなぐ生物多様性モデル工場への取り組み」

【RC審査員特別賞】

- ・住友化学株式会社
MMA事業部
エッセンシャル&グリーンマテリアルズ研究所研究グループ(高分子)
工業化技術研究所研究グループ(愛媛プロセス)
「アクリル飛沫防止板地域内資源循環プロジェクト MICAN プロジェクト ～(M)みんなで(I)いっしょに(C)サーキュラー(A)アクション(N)にいほま～」
- ・三菱ケミカル株式会社
茨城事業所工事安全衛生協力会
「三菱ケミカル(株)茨城事業所 教育体感施設「鹿島安信塾」活用における協力 企業第一線作業者のレベルアップ」

【RC優秀賞】

- ・デンカ株式会社 千葉工場環境保安部
「独自の体感施設を活用したテクニカルスキル・ノンテクニカルスキル教育による安全文化醸成に向けた取り組み」
- ・三井化学株式会社 大阪工場
「労働災害危険源抽出 AI “Marsa”の開発と安全活動の活性化」

【RC努力賞】

- ・日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社
日本ペイントグループレスポンシブル・ケア委員会主管RC事務局
「『RC 中長期方針』の策定 ～持続的な RC 活動、進化を目指して～」



RC大賞を受賞した花王株式会社和歌山工場・研究所

RC大賞

花王株式会社 和歌山工場・研究所

歴史と環境を未来につなぐ 生物多様性モデル工場への取り組み

花王の和歌山工場は創業以来、場内に現存する江戸時代に築かれた防潮林を中心とした緑地を保全し、事業活動と緑が調和した環境を創ってきた。2011年からは、花王が公表した生物多様性の基本方針に基づき、生物多様性モデル工場を目指して戦略的かつ積極的に活動を進めてきた。

①地域の生態系調査と保全方法の確立と実行

②社員の環境意識の向上

③社外の関係者・機関との連携

その結果、地域社会との交流が大いに促進され、また社員のウェルネス向上、エンゲージメント醸成等、地域固有の生態系から多くのサービスを享受できている。



RC審査員特別賞

住友化学株式会社 MMA事業部

エッセンシャル&グリーンマテリアルズ研究所 研究グループ(高分子)
工業化技術研究所 研究グループ(愛媛プロセス)

アクリル飛沫防止板地域内資源循環プロジェクト MICANプロジェクト ～(M)みんなで(I)いっしょに(C)サーキュラー(A)アクション(N)にはま～

住友化学は自社のGHG排出を削減する「責務」と製品・技術の普及による社会のGHG削減への「貢献」を進めている。新型コロナウイルス感染症の分類変更に伴い、大量廃棄が予想されたアクリル製の飛沫防止板リサイクルプロジェクトを2023年に新居



浜市と共同で実施した。期間中2,409kgの飛沫防止板を回収し、同社の独自技術によるケミカルリサイクルを行いアクリル樹脂の原料に戻した。その一部をキーホルダーなどに再生して新居浜市内の小学生に配布し、資源循環に向けた教育活動にも貢献している。

RC審査員特別賞

三菱ケミカル株式会社 茨城事業所 工事安全衛生協力会

三菱ケミカル(株)茨城事業所 教育体感施設「鹿島安信塾」活用における 協力企業第一線作業者のレベルアップ

三菱ケミカルが工事協力企業と一体運営している体感教育施設「鹿島安信塾」は、2005年当時労働災害が多発し、実体験を伝承するニーズが高まり、工事協力企業の発起、同社との協業により設置した。しかし、数年後は利用者数の減少とともに災害件数が増加し、都度対応してきたが抜本的な改善には至らなかった。そこで、2022年からこれらの課題を克服するため、協力企業も交え再び検討を開始、課題を抽出し対策を行った。その施策は効果てきめん、2024年定修では第一線作業者のレベルアップにより災害件数は大幅に減少、工事品質も向上し成果をあげることができた。



RC優秀賞

デンカ株式会社 千葉工場環境保安部

独自の体感施設を活用したテクニカルスキル・ノンテクニカルスキル教育による安全文化醸成に向けた取り組み

デンカ(株)千葉工場では、安全文化の醸成、保安事故・労働災害の減少・軽度化を目指す教育として、体感教育施設「安全力創成館」を立ち上げ、2020年5月より運用を開始した。体感教育に加えノンテクニカルスキルも考慮したユニークな内容とし、工場働く全ての方(社員、協力会社、関係会社の方も含む)を対象に教育を行い、現場力底上げを図っている。2024年10月末時点で延べ約5,000名の方への教育を実績化しており、アンケートにて受講者の安全意識の向上を確認している。今後も持続可能な活動として取り組む。



RC優秀賞

三井化学株式会社 大阪工場

労働災害危険源抽出AI「Marsa」の開発と 安全活動の活性化

三井化学(株)大阪工場では、適切な場面で、過去事例や記録類の有効活用を可能にし、安全活動のレベルアップ、及びトラブルの未然防止/早期解決を支援するために、自然言語系AIによる危険源抽出システムを開発、導入した。本システムの導入により、経験の浅い若手のリスク認識力向上や、職場の安全活動の活性化の効果が得られたため、他国内工場でも利用が始まっている。本取り組みは、新聞や社外講演などで広く公開されていて、現在も年間10件以上社外から問い合わせを受けるなど、関心度が高いシステムになっている。



RC努力賞

日本ペイントコーポレートソリューションズ株式会社

日本ペイントグループ レスポンシブル・ケア委員会
主管RC事務局

「RC中長期方針」の策定 ～持続的なRC活動、進化を目指して～

1995年のレスポンシブル・ケア協議会設立時にはRC活動を始めており、当初より国内グループ一線で活動を展開、RC組織に合致したマルチサイトでISO14001を取得するなど2014年の関係会社統合、事業会社分社化を経て一貫してグループ一貫でのRC活動を愚直に続けてきた。そこに気候変動等の社会課題を取込み、RC活動の新基盤とすべく「RC中長期方針」を策定し運用を開始した。長年継続した安全・安定操業を土台に、中長期視点での環境保全目標を盛込んだ活動も実践することで、RCを軸として今後も業界をリードしていく。



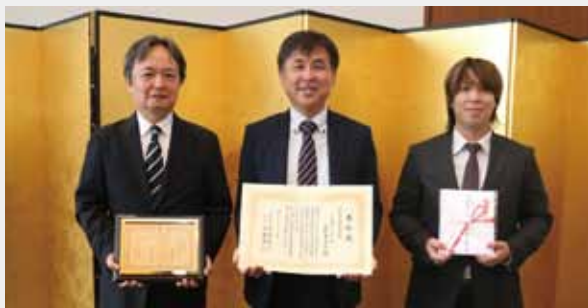
日化協安全表彰 受賞事業所の紹介



2025年第49回日化協安全表彰を受賞された各事業所の概要、安全活動の特徴、今後の取り組み等を紹介します。

安全最優秀賞

株式会社レゾナック 龍野事業所



◆事業所の概要

当事業所は、1971年に大阪3工場を新設統合して各種合成樹脂を製造する工場として操業を開始しました。現在では自

動車、電子材料向けのポリエステル樹脂、エマルジョン樹脂を主力製品とした製造を行っており、当社グループの関西における生産拠点として操業を継続しております。

◆安全活動の特徴

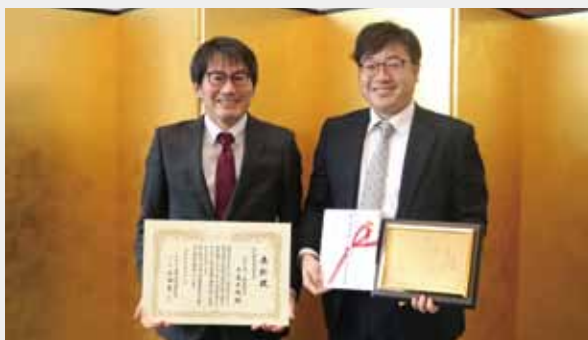
当事業所はTPM活動および、これをさらに発展させた龍野三革新活動を通じ、事業所で働く全員が主体的に職場の実情に即した安全活動を推進してまいりました。現場における創意工夫を基盤とした活動と経営職によるトップダウンの施策がうまく融合することで継続的かつ効果的な安全活動が実現できています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

弊社は「安全は全てに優先する」という行動規範に基づき事業活動を推進しています。安全文化を醸成するための各種安全活動をご評価いただき、本賞を受賞できたことは大変光栄に存じます。今後もさらに安全な事業所を目指し、事業所全員で工夫を続けながら安全活動を推進してまいります。

安全優秀賞

PSジャパン株式会社 水島工場



◆事業所の概要

当社は、旭化成株式会社と出光興産株式会社の合併会社として2003年に発足しています。水島工場は、岡山県倉敷市に位置し、1965年の操業開始以来、食品包装や家電などに使用される高品質なポリスチレン樹脂を製造しています。ケミカルリサイクルにも取り組んでおり、持続可能な社会への貢献

を目指しています。

◆安全活動の特徴

旭化成水島製造所の一員として、ISO14001、OHSMSや保安管理など複数のマネジメントシステムを運用し、環境安全に取り組んでいます。弊工場の安全活動は「PSJ-STOP活動」を柱に展開しており、不安全行動の撲滅と安全文化の醸成を目的としています。活動は相互指摘から始まり、褒める提案や対話を重視した新手法へと進化。気づき力を高める教育や、ヒヤリハットの共有、顕在化したリスクのみならず潜在リスクの改善にも繋げており、ボトムアップの全員参加型の活動となっています。さらに、保安防災リスクアセスメントや防災訓練を通じて、最大ハザードへの対応力の強化を図っており、関係協力会社を含めた工場全体での安全行動の日常化を図っています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

上述した活動等を通じて議論を重ね、安全文化の醸成を推進すると共に、現場力の維持・継承を重視し、系列認定教育システムを通じて人材育成にも力を入れ、安全・安定・安心を基本に、誰もが働きたくするサステナブルな工場づくりを推進していきます。

安全優秀賞

三井・ダウ ポリケミカル株式会社 千葉工場



◆事業所の概要

1967年に操業を開始した本事業所では、低密度ポリエチレン、酢酸ビニル共重合樹脂「エバフレックス®」、多目的シール樹脂「CMPs®」をはじめとするエチレン系機能樹脂の製造を行っています。

◆安全活動の特徴

日本とアメリカの化学会社を親会社を持つ強みを活かし、実効性のある安全活動を推進しています。「プロセス安全管理(PSM)」の導入により、事故の未然防止を目的とした詳細なリスク評価や運転手順の厳格な管理を実施しており、さらに、「命を守るためのルール」の制定や、KY活動・指差呼称の徹底、ヒヤリハットからの改善、対話型パトロールなどを通じて、従業員一人ひとりが主体的に安全に関わる文化を醸成しています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

近年、協力会社員の労災やヒヤリ事例が続いていることから、協力会社を含めた安全意識の向上と現場での実践的な活動強化に取り組んでいます。また、操業開始から約68年が経過し設備の老朽化が進む中、安全かつ安定した操業を継続するため、従業員一人ひとりが日常業務での「気づき」や「注意力」を高めることを重視しています。今後も「安全はすべてに優先する」の理念のもと、社員と協力会社が一体となって安全文化を育み、無事故・無災害の継続を目指します。

安全優秀賞

株式会社レゾナック・ オートモーティブプロダクツ 関西事業所(石川)



◆事業所の概要

当事業所は1938年の創立以来、高度な金型の設計製作と精密射出成形を強みとした加工および組立技術を活かし、車載部品から民生産業用部品まで、多岐に渡る合成樹脂成形品を製造しています。

◆安全活動の特徴

当事業所では、「共に創ろう 笑顔の職場」をスローガンに掲げ、長年にわたり安全文化の醸成に取り組んできました。生産優先の風土を見直し、安全を最優先とする職場への転換を図るため、全員参加の生産保全活動(TPM)を導入して予算や時間の確保から着手しました。また、従業員の安全意識を高めるために「トップダウンから対話型」「叱責から称賛」「受動型から能動型」「教育を点から線」といった風土改革を進め、管理者が現場に寄り添う姿勢を大切にしてきました。こうした継続的な取り組みの積み重ねにより、安全文化の醸成と職場全体の安全意識の向上につなげています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

私たちは「すべての災害は防ぐことができる」という信念を持ち、現場に真剣に向き合う姿勢を全員で徹底していきます。経営層から現場の一人ひとりまでが「ONE TEAM」の心でつながり、対話し支え合いながら災害ゼロから危険ゼロの職場へ進化させていきたいと思っています。真のゼロ災は単なる目標ではなく「仲間を守る」という強い想いの先にあると信じて、誰もが安心して働ける笑顔の職場を実現するために、これからも一歩一歩着実に前進してまいります。

安全優秀賞

株式会社レゾナック・セラミックス 横浜工場



◆事業所の概要

当工場は、1933年に創業し、アルミナ製品の生産を行っています。現在は、放熱材料用途のアルミナを主力製品としており、長年の経験と技術を活かして、お客様のニーズに応じた製品の提供を行っています。

◆安全活動の特徴

当工場では、全ての従業員が「出勤して、仕事を始めたときと同じ状態で帰宅することが最も重要である」という考えのもと、従業員だけでなく協力企業の方々も巻き込んで安全活動を展開しています。安全活動の基本となるルール遵守のための教育や、職場に潜む危険源の改善は、以前より継続的に実施しています。近年では、一人ひとりが作業における危険を理解し、リスクを適切に管理できる能力を養うことや、事故を未然に防ぐための意識づけを安全活動に取り入れています。また、作業のやりにくさや困りごとを共有し、改善に繋げることで、安全で安心して働ける職場づくりを進めています。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

今後は、作業者との対話を重視し、現場の声を反映させた取り組みを進めていきます。特に現場で作業者と管理者が同時に同じ作業を確認し、論議して改善につなげるようなコミュニケーションを大切に安全パトロールや、ニーズに合わせた安全活動を通じて、安全水準の向上を図ります。また、一人ひとりが安全を意識し、実践できる人材の育成に努めます。引き続き安全活動を推進し、全従業員が「笑顔で出勤し、笑顔で帰宅する」ことを継続していきます。

安全優秀特別賞(研究所)

株式会社レゾナック つくばサイト



◆事業所の概要

当事業所は製造設備を保有しない独立した研究開発拠点として1987年に設立しました。当事業所は主に機能性材料の研究開発を行っています。

◆安全活動の特徴

当事業所ではソフト・ハード両面から対策を講じ安全活動を推進しております。ソフト対策では当社の安全重点テーマである「私の安全宣言」の実施と「安全行動10則」の徹底、作業・交通KYTの実施、規則・規準を実態に即し分かりやすく説明した「安全ガイドライン」の設定、実験に関する安全講習会等の教育・訓練、全員参加による安全当番巡視等の活動を推進し、所員の安全意識の向上を図っております。ハード対策では安全衛生委員会巡視や対話型安全巡視(SCP)等による不安全箇所改善、作業リスク評価による労災リスクの摘出と対策、保安監査委員会による設備導入時の本質安全化等を推進してきました。その結果、設立以来の休業災害「0」、不休災害も2017年以降「0」を継続しております。

◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

当事業所は当社の安全基本方針「安全とコンプライアンスは全てに優先する」ことを全従業員が共有し、行動します。」の信念のもと事業活動を推進していきます。今後も種々のソフト対策、ハード対策を立案、計画、実行することで、全従業員の安全意識をさらに高めるとともに、設備の本質安全化を図ることにより無災害を継続していきます。

レスポンシブル・ケアニュース

Index

No.110
SUMMER

5月27日 日化協第34回定時総会

2

会長挨拶

3

GXを推進し、持続可能な社会の確立に貢献
一般社団法人 日本化学工業協会 会長 岩田 圭一

日化協三賞受賞各社の紹介

4

第19回 日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞

5

第49回 日化協安全表彰受賞事業所の紹介

6

RC委員会だより

8

R C 委 員 会 だ よ り

☆会員動向 (会員数：121社 2025年7月末現在)

☆行事予定

9月3日 安全シンポジウム(ハイブリッド)
9月6日 なぜなに?かがく実験教室(科学技術館)
10月20日、21日 RCLG定期会議
10月22日、23日 第18回 アジアパシフィック レスポンシブル・ケア会議 (APRCC)

表紙写真の説明

鹿島事業所の夜景

鹿島灘の眩しい光は、すっかり夜のとばりへはき出され、幻想的な光と静寂の中で今日も安全操業と無災害を続けます。

株式会社ニチノーサービス提供

編集後記

●● 今年も暑い夏が続いており、8月を迎える前に、早々と最高気温の記録が更新されてしまいました。そのような中で、米国大統領は、温室効果ガスが地球温暖化を深刻化させるという過去の政府判断を撤回してしまいました。しかし、日本の化学産業は着実に脱炭素化とそのために必要な技術開発を進めています。いつの日か、米国もそのような技術を使う必要が出てくることを信じて。

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>



一般社団法人 日本化学工業協会

No.110

2025年8月22日発行

レスポンシブル・ケア
ニュース
2025 夏季号

編集兼発行人 進藤 秀夫
発行所 一般社団法人 日本化学工業協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-4-1
TEL 03-3297-2583
FAX 03-3297-2606
URL <https://www.nikkakyo.org/>

編集協力
(株) 創言社
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋4-8-13
TEL 03-3262-6275